

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

情 報 局 編 輯 二 十 月 三 十 日 第 三 五 一 號

札立の時

精神は  
三ヶ特別攻撃隊の  
勇士に続き  
敢闘は  
三ヶ志士の  
勇士に劣らぬ

真 實 週 報



鏡當りしてもB29の  
巨砲を叩き碎し、屠  
龍の名をさらに轟か  
さんと必中の腕を撫  
し、一剣を磨く内地  
制空隊勇士  
〇〇基地



「防空はわれらの戦ひだ。われらの手で消し止めなければ、無事ない」と固志連署の東京防空隊は、十一月二十七日の敵機を大胆に撃退して奮闘した



大東亞戦争勃發以來、或ひはそれ以前から  
軍事に必要々々を叫ばれてきた敵の空襲も  
に現實の重苦となり、敵機の来襲は種々な  
了。しかも敵の空襲は現在にまだ前哨戦に  
過ぎず、いはゆる本格的な爆撃に類するものは将来  
の情勢である

いま、支那大陸方面における敵基地は暫く  
措いて、帝都を中心とするわが本土重要地区  
を狙ふ中部太平洋マリアナ基地の敵情をみる  
と、既に基地無数の機銃を惹り、代將ハンケ  
ルを長とする第二十二機隊が進出完了し  
てゐる。現在のところ、マリアナ群島にお  
ける敵機の数、B29を基幹とする大規模機約  
百機とみられてゐるが、これ以外に百機を  
收容する餘裕を持つといはれる。敵がこれら  
大規模の威力を全幅的に活用し、レイテ作戦  
の増進と相俟つてわが本土爆撃を飛躍的に  
強化して来ることはいふまでもない。前駐日  
大使グルーも、去る十一月二十八日の放談で  
「B29による東京爆撃は今後も繰り返さるべく  
次第にその猛烈さを増してゆくであらう」と  
演説してゐるし、さらにハンケルは「B29の  
爆撃は未だ眞実的な域を出てゐない、今後い  
よいよ激進的な爆撃を加へる」といふまで  
てゐる

これらの言を俵つまでもなく、敵の本格的  
爆撃はこれからである。勿論われは、既  
にこの日のためにこの数年間の訓練を積み、  
準備を整へ、心懸へを凝へて来た。われに不

三十日の夜が明ければ、まづ東京空襲の煙ペン  
「敵が、聞いてはくわいおれり」が旗竿として  
立てられた。町が出来かたは「家々丸焼け」  
たつて何だ」と五層煙台



民は、この敵に後を見せるか。否、特別攻撃  
隊の勇士たちと同じ血を流した国民が、ひ  
としく断じて「否」と答へることであらう。  
われは、この敵に懸然と立ち向ひ、  
立派に戦ひ勝たねばならぬ

敵イギリス國民でさへ、これをなし遂げて  
ゐる。一九四〇年に盟邦ドイツがあの大規模  
なイギリス本土爆撃を敢行した時、イギリス  
國民は、戦局は悉く彼に非で、全く暗鬱な気  
分の中、よく空襲の惨酷に堪へ、あくまで戦  
力を維持し、選挙戦開戦の活躍と相俟つて重  
に狂調を倒れにかへした。最近イギリス政府  
が発表した自衛によると、市民の死者は五万  
七千二百五十八名、傷者七万八千八百十八  
名、さらに家屋の全壊乃至半壊は四百五十万  
戸(全國の戸數二千三百萬戸だから、だいた  
い三戸につき一戸の割合)に上つてゐる。し  
かも被害は項を續けてゐる

まは、われらの盟邦ドイツ國民はどうか  
ら。ハンブルグ大爆撃の惨劇は未だ耳新た

十一月三十日夜半の空襲には、在東部隊の一部が出動して、破壊防衛や避難者の誘導、救護は  
かりでなく、復旧作業に當つたが、キビしくしたその活動は、民防隊を鼓舞した



なところであり、その後、度々重なる大爆撃で  
首都ベルリン始め各都市は破壊と化し、最近  
では敵大規模機三千、五千、或ひは七千とま  
さどドイツ本土を激しくはかりに連環爆撃を  
加へてゐる。しかもドイツ國民は少しも動ぜ  
ず、最後の勝利を期して奮闘してゐる。最  
近ラベルス宣稱は、敵の首領に懸された  
國境の一都市を訪問、市民の敵愾に對するヒ  
トラ総統の感謝を傳達する共に、一軍需工  
場で「獨逸の技術並びに材料陣は、或る決定  
的戦場において反機軸の機先を制するもの  
として期待されてゐる。ドイツ制空隊が素晴  
らしい成果を収めるのも近い將來ではあるま  
い、ドイツ國民は戦ひ抜いて勝利の日に誇  
む以外なすべきことはないのだ」と演説して  
ゐるが、これこそ、あくまで敵の空襲と闘ひ  
抜いてゐるドイツ國民の軒並たる真氣を如實  
に示すものでなくて何であらう

われらの盟友はかくて戦つてゐる。敵また  
然りである。何でわれらが、敵の撲滅に對し

て怯むところがあつてよくだらうか。われも  
まな敵の撲滅に却然と胆をあげて奮せんぞと  
するものである

空襲は國民の戦ひなり。この本  
質的な空襲の性格にわれらが徹し  
たとき、然然として勝利の大道は  
ひらける

われらはこれまで幾度か、「待つあるを待  
む」態勢を強調した。これを更に、「空襲は  
自分たちの戦争だ」といふ自覺と決意を基  
礎にして再検討するとき、防空対策は全面的  
に飛躍的な強化を見、空襲下の活動並びに生  
産増強、さらに備後の対策でも全く開眼する  
ところがないはずである

訓練準備には、これで完結だといふ極限は  
ない。開戦後、老幼婦女子の疎開も、待  
避所の強化も、さらに今後に残された課題で  
ある

強行に實施された前後には、多くの問題を

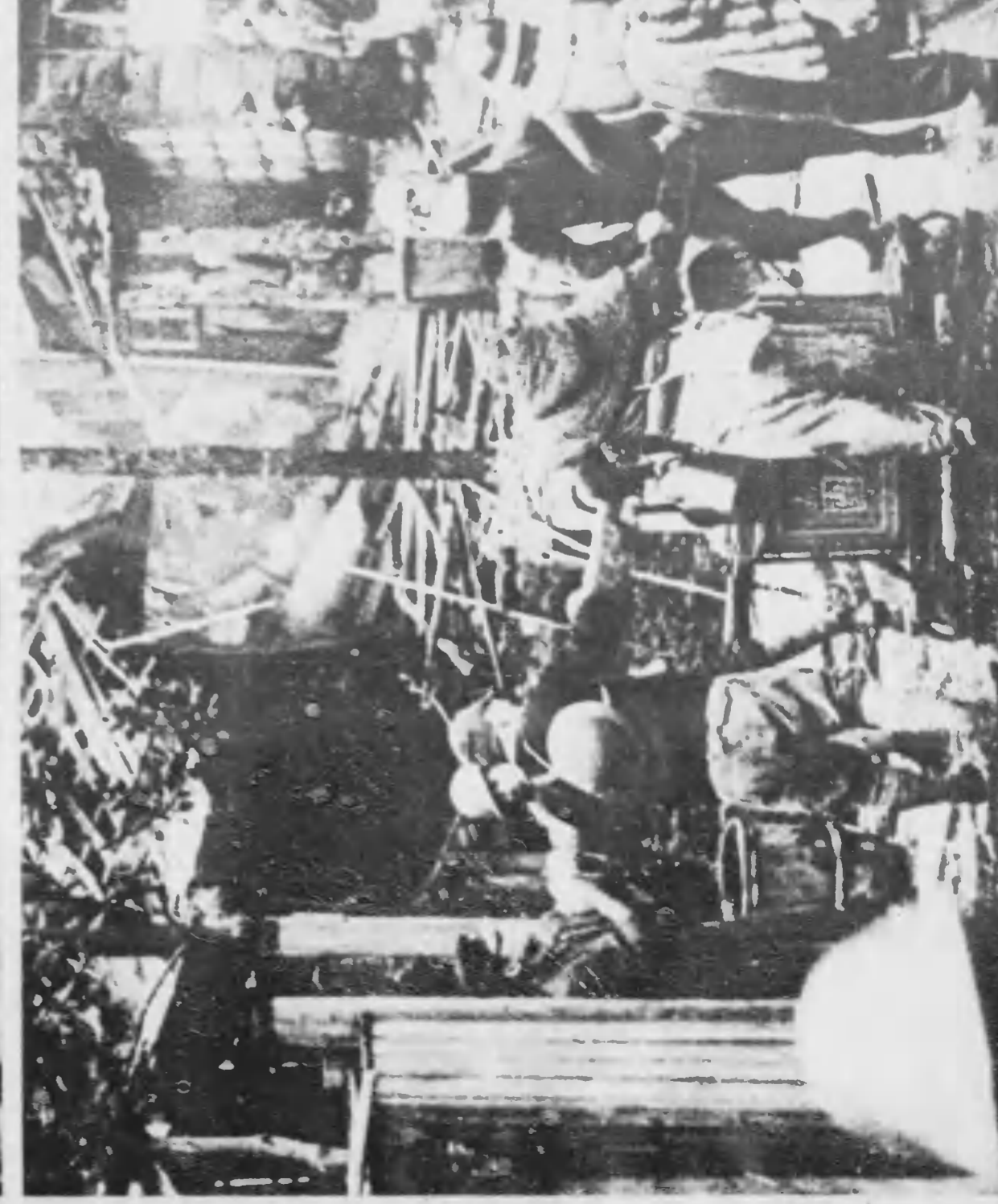
投げかけたかにかみする事有疎開も、今にして  
みれば「あゝ、よかつた」といふのが、親も  
子も、感らざる心算だらう

また、十一月二十九日の夜半から三十日の  
拂曉かけての帝都の夜間首領の際、既に妻子  
を疎開させてゐた一軍需者は、自分は健け出  
されながらも、猛突と闘ひながら、我勝てり  
の確信を得たと語つてゐる

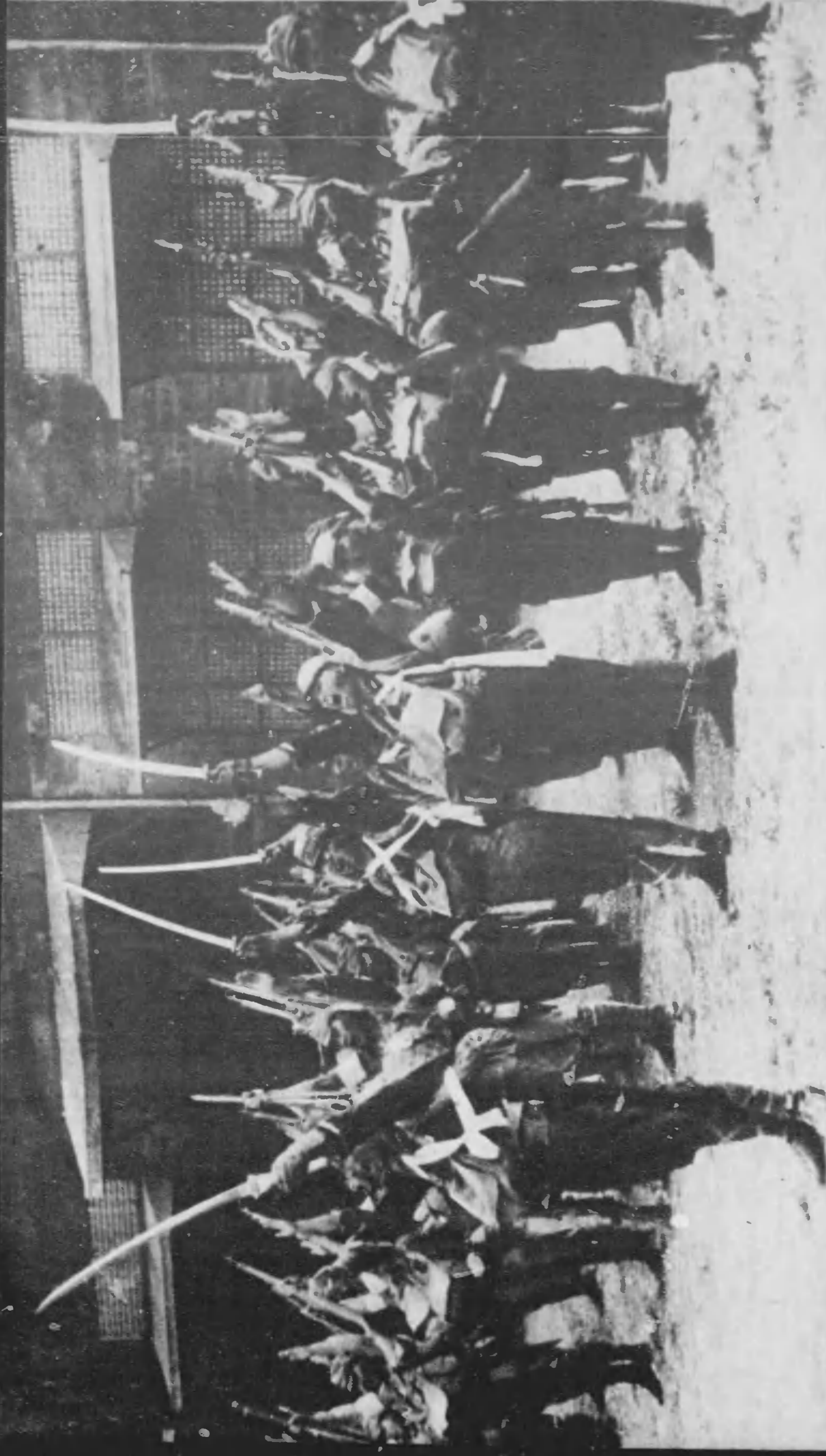
急遽に戦闘準備を整へよう。訓練の周到と  
準備の萬全こそ、不屈の國魂の根源である。精  
神においては陸海の特別攻撃隊勇士に続き、  
敢闘においてはラベウルの勇士に準ぶ。これ  
こそ國民戦争、即ち空襲を敵ふわれら國民の  
一大機期でなければならぬ

われらは絶対に皇軍の作戦に信  
頼し、眞撃にして、なほ明らかな敢  
闘を續け、こんど強化される敵の  
本格爆撃を戦ひ抜かうではないか  
資資提供 朝日新聞社 時事通信社 読売新聞社

空襲に見てもよりの傍観は許されぬ。十一月二十七日の空襲に、山の手では、通りすがり  
の人もかけつけて、ポンプを押し下。みんな徹夜のこの氣持で防空準備しよう







空襲をこめて  
空襲隊員中隊前(向  
つて右)の手を振る  
重水爆機(左)

## 特別攻撃隊 相次ぐ壮挙

レイテ島をめぐる日米の決戦は地上隊以来五旬に及び大消耗戦の様相を呈して、いよいよ激化の一途を辿つてゐる。わが軍は緒戦の善戦なる艦隊決戦に続いて日夜繰返される航空決戦、また地上部隊の勇猛挺身奮進など猛攻に次ぐ猛攻を以てし、遂に壮烈戦史に比なき一機一艦必殺の神鷲や敵中着陸の空挺部隊等、陸海軍特別攻撃隊の出撃となつて、敵に一大痛撃を加へつゝある。敵が相次ぐ大消耗にも拘はらず、雄大な物

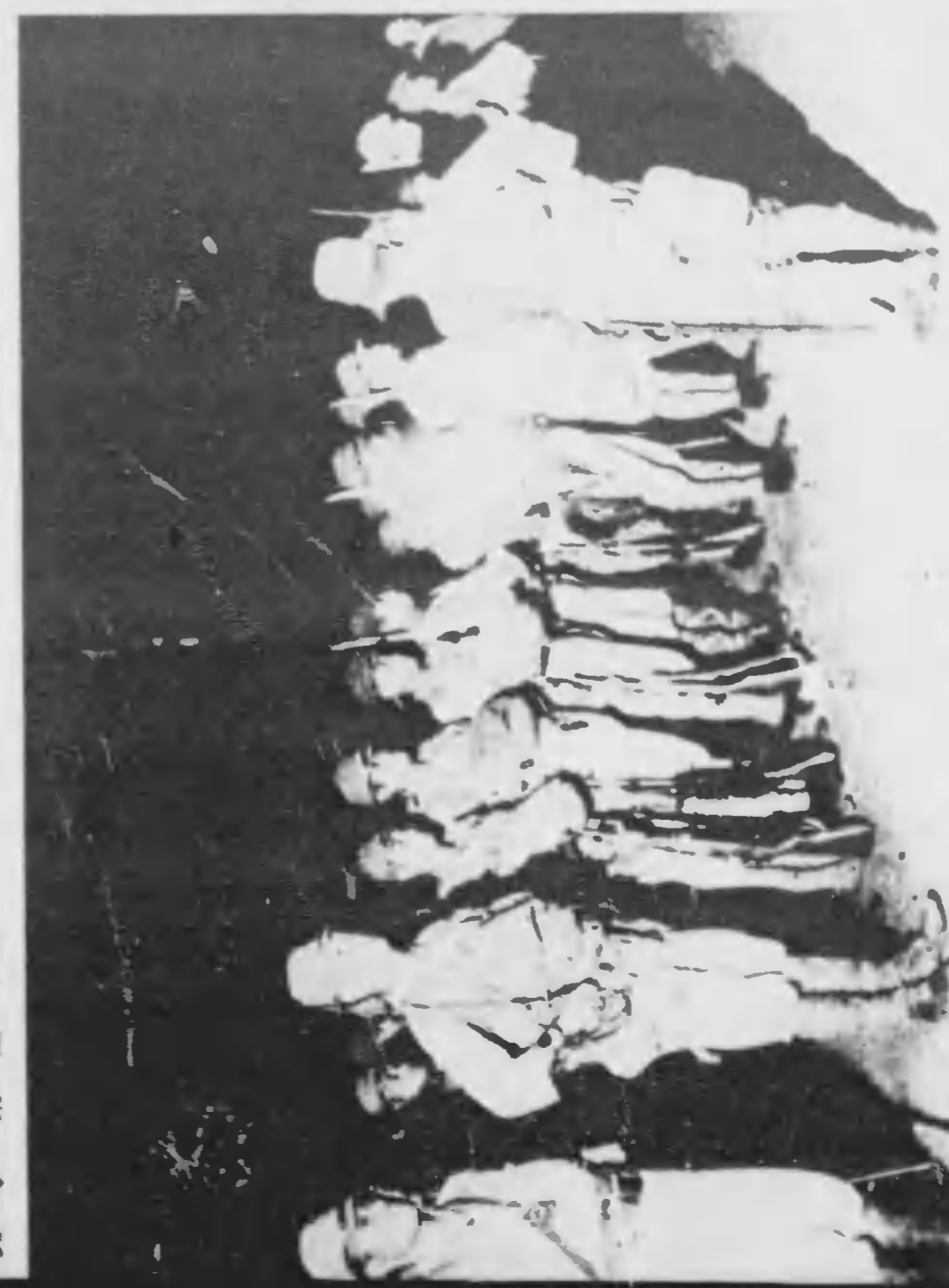
## 烈熾戦決行

滅亡の國境を沸らせ  
つゝ、敵艦の轟撃を善  
戦し、決死隊飛行場  
を奪還せんとする。  
特別攻撃隊(左)  
空襲隊の出撃直前  
(向の機體は特攻  
が入つてゐる)

出撃中隊員の訓示  
を告げる「機長」



量と兵員を注ぎ込んで必死の攻撃を加へて來るのも、既にこの一戦を日米決戦の眼目としてゐるからである。いまや戦局は漸次われに有利に轉回し、當初よく優勢な敵を支へて重要陣地を死守したわが守備部隊は、續々到着する新鋭兵團を迎へて陣容を強化し、近く一大攻勢を開始して徹底的に敵を粉砕せんとしてゐる。國民もまたこれに應へて各、その本分を盡し、生産に、防空に、生活に、全力を投じて戦ひ抜かう



この機銃刀で老兵のまつ直を叩き落して 後容として遺棄機に寄り込む「機長」  
零ると充實一ぱいの「機長」(右端が加米少尉)  
資料提供 朝日新聞社 読売新聞社 毎日新聞社





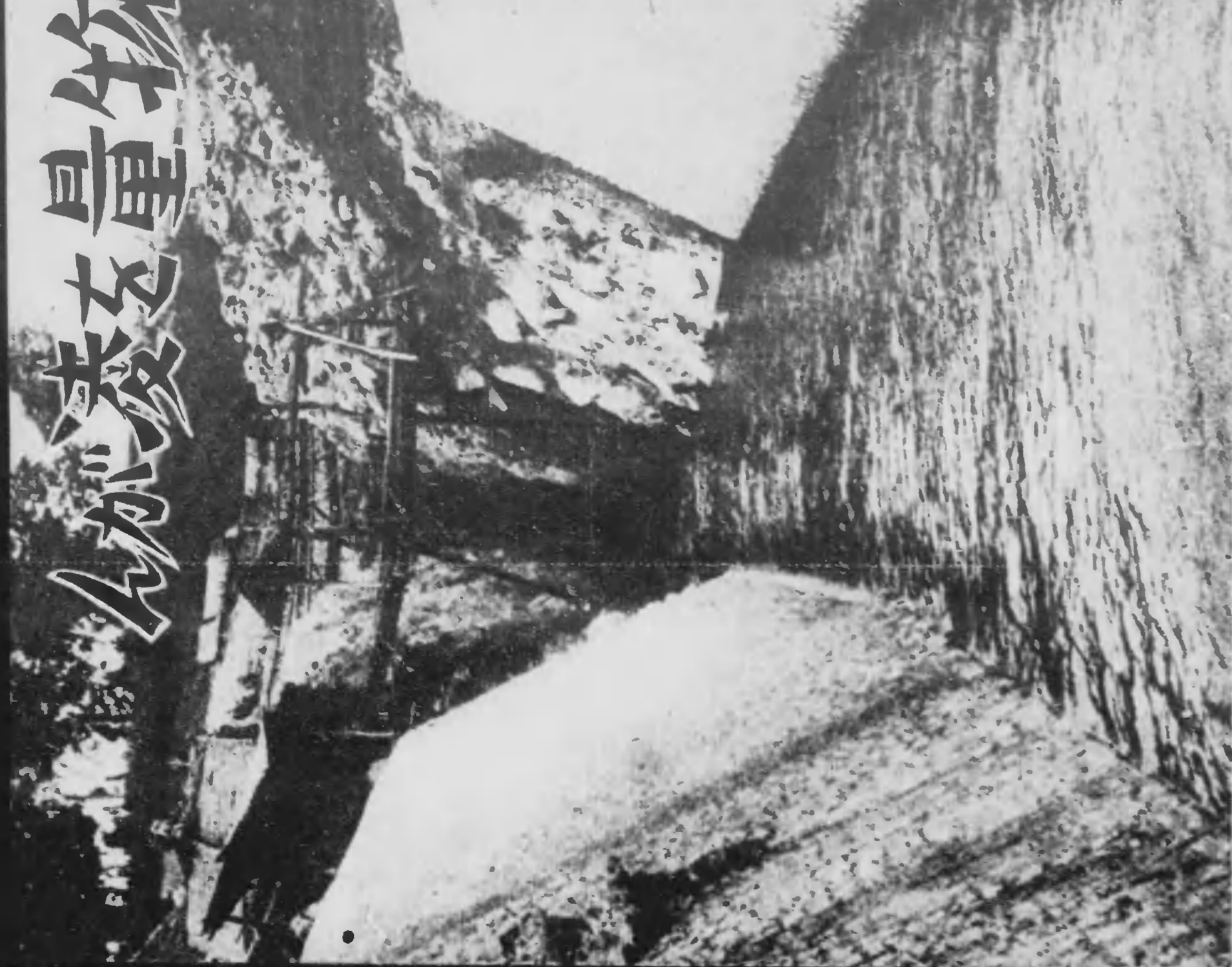
# 敵の量産を凌ぐ



□ 岩壁に懸架した大屋根が花咲く今日の知水氏



□ 外流は陸道を通じて、酒々とインド洋へ



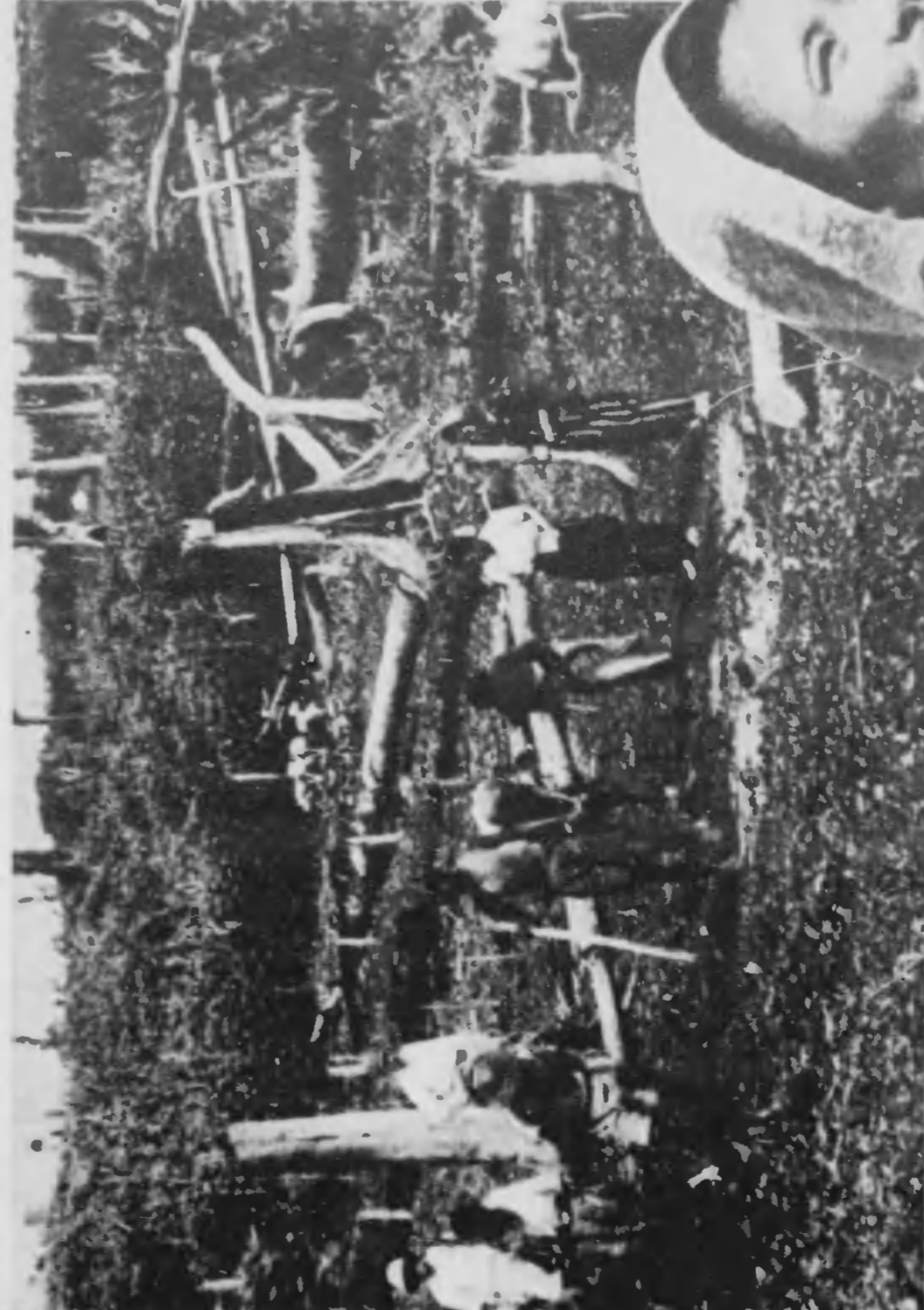
## ジャワ 運河開通

ジャワのガヂリ州ボボにあるチタンボルダラ湖は毎年雨季になると必ず氾濫するので、農民が豊々と喜ぶとした農作物も水の泡となってしまうのが常であつたにも拘はらず、戦前の荷オランダ政府は灌漑技術を世界に誇りながら、これをどうにも出来なかつた。わが軍政影部が、昨年二月この工事に着手したことについては、すでに昨年九月二十二日(第二九〇號)の本誌に「ジャワの大治水工事進行」といふ題で既に報告した通りで、それから一年有半、戦時下の資材不足を克服し、階層と過地帯につきものの悪性マラリアと戦ひぬいた不屈の大和魂に感服が擧つて、運河は完成した。

いま平原に一線を區切つて賑々と流れてゐるこの運河によつて、湖地帯は畦へり、黄金色の稲穂が登る日も近いといはれるが、これこそ開闢され、伸びゆく大東亞の頼もしい姿である。撮影 ジャワ軍政影部

□ 最高指揮官によつてアリアは切れた。潮水は堰を切つてどつと運河へ流れ込む

## 大東亞の建設進む



### 北ボルネオ ガガセ農場

□ 明るく笑ひ、健れる健康。烈日の上で開拓に勤む娘さんたち。撮影 養殖課近衛員

千古の密林に斧、鋸の音が響き、やがて果てしない沃野が耕されていく。これこそ赤道下の北ボルネオに敢闘する邦人開拓者たちの汗の戦果である。この多数の人々は、戦前、新務省の開拓民として南に新天地を求め渡航したもので、開闢とともに一時敵の手で孤島に監禁されたが、陸軍の護衛によつて救ひ出され、引續いての土の戦士として開拓に挺身してゐるのである。不屈の剛魂と血の努力とは大自然の恵みによくまれば、豊饒な産りとあつて伸びる日本の国力をいかに上にも、強めていくことであらう。

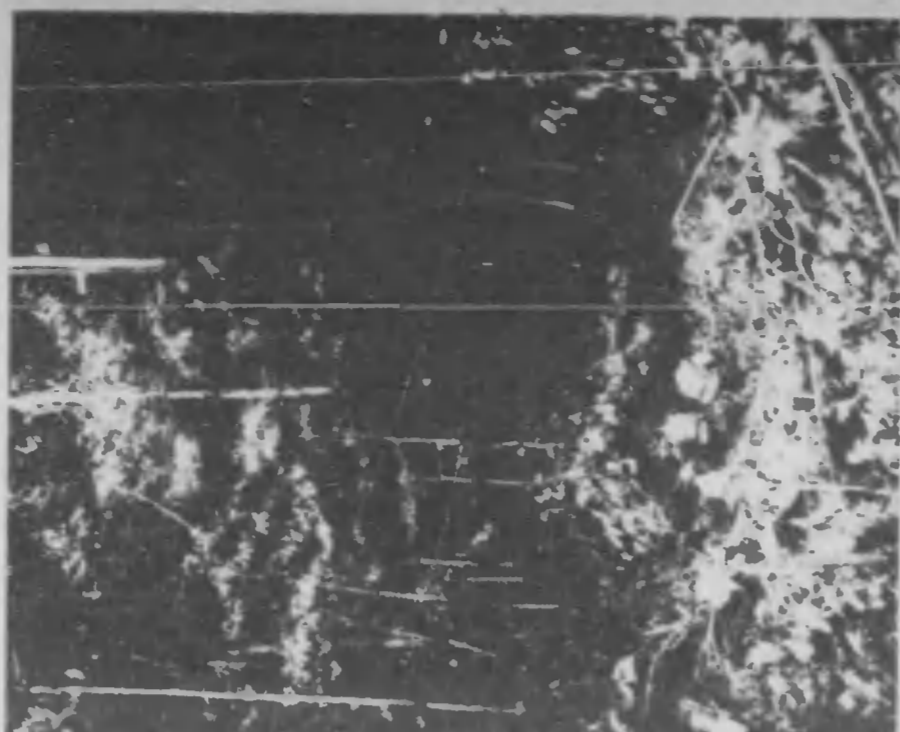
□ 廣漠たる熱帯の沃野、邦人拓士の手で開かれた。ガマ大農場——神で次をあげ種子を播いてゆく開拓者







1 汽船から丸木舟に乗りかへて渡りつない船を渡り、いよ／＼と子部湖



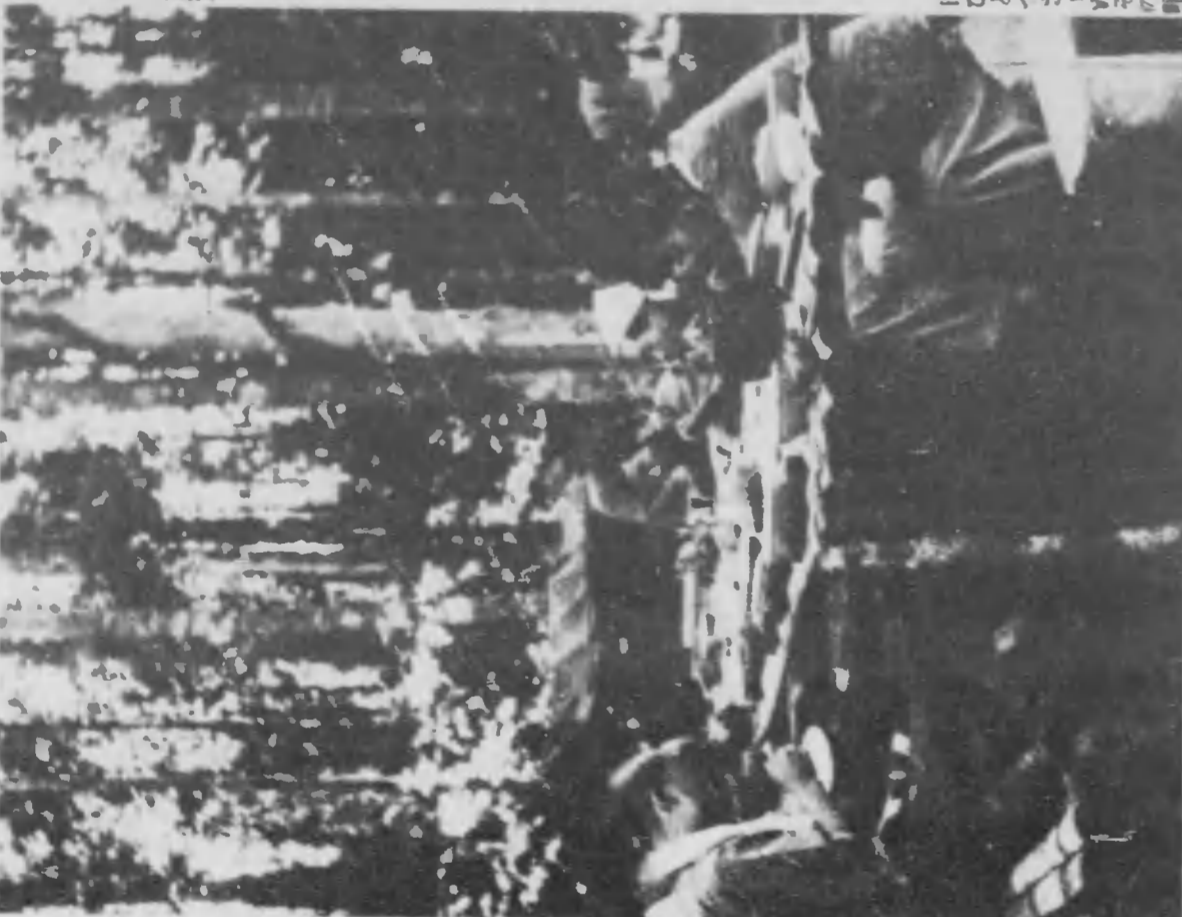
2 大抵も州かんばかりの真木には種類がからみつき、全く森林には音も夜もな



3 森林の底はじめ／＼と水溜り地とぬかるみと原までも入る水溜り地。樹影の知れ



4 流れて来た。森林帯はどよ／＼となつた。森林はきれいな水でマンデー



5 水のしほは夜更だ。飯食の煮に浸されたのは今日

6 運搬がまたも行く手をはいむ。四、五〇メートル



【ニミギニアには石炭がある】  
と確信して資源調査隊が乗り出したのは、大東亞戦争が勃発してすぐであつた。しかし、ニミギニアはわが本土の二倍もあり、しかも豊かな森林に覆はれてゐるから、どこから探してよいやら見當もつかなくつた。一束のぞださへあれば、七日や十日は食物の採取ができるといふ原住民には、石炭など必要がないので、その名さへ知らない始末であつた。そこで連日石炭とはかういふものだといふことを原住民に教へてまねばならなかつた。からして苦心を重ねてゐるとき、ブア人が「奥地のマキオン族が教へぶしに集つてゐるものが石炭らしい」と知らせて来た。早速に隊員がその部族にゆくと、果して石炭であつたものの、河床から拾つて来たといふだけで、どこに炭層があるのかは分らなかつた。

兎に角も、石炭があることを知つた隊員は元氣百倍してこの部族を中心に、森林を這つぶしに調べていつた。野のむろ沼や湖まで渡するぬかるみをふみわけ、山蜂、蚊の大群に襲はれながら奥地へ奥地へと苦闘すること数十日、〇〇河にまさ／＼と露出した石炭の層を発見した。

日も好し、天長の佳節であつた。まこと、大後庭の賜であらう。埋蔵量は無窮蔵、しかも炭質は隊員があつと驚いたほど優れた有煙炭であつた。

實隙は開かれた。この石炭ばかりではない。大東亞各地に眠つてゐた資源は、からして種々どわが手に取上げられ、戦力化されて、いま決戦に役立つてゐる。

7 『こんな石炭の露出があるぞ』  
8 『〇〇河は、まるで運河工事したやうに、石炭がファンクンに露出してゐた。しかも不思議なことだ。本部のキャンプは、この石炭層の中央部の上に設けられてゐたことだ。』

ニミギニア 資源調査隊





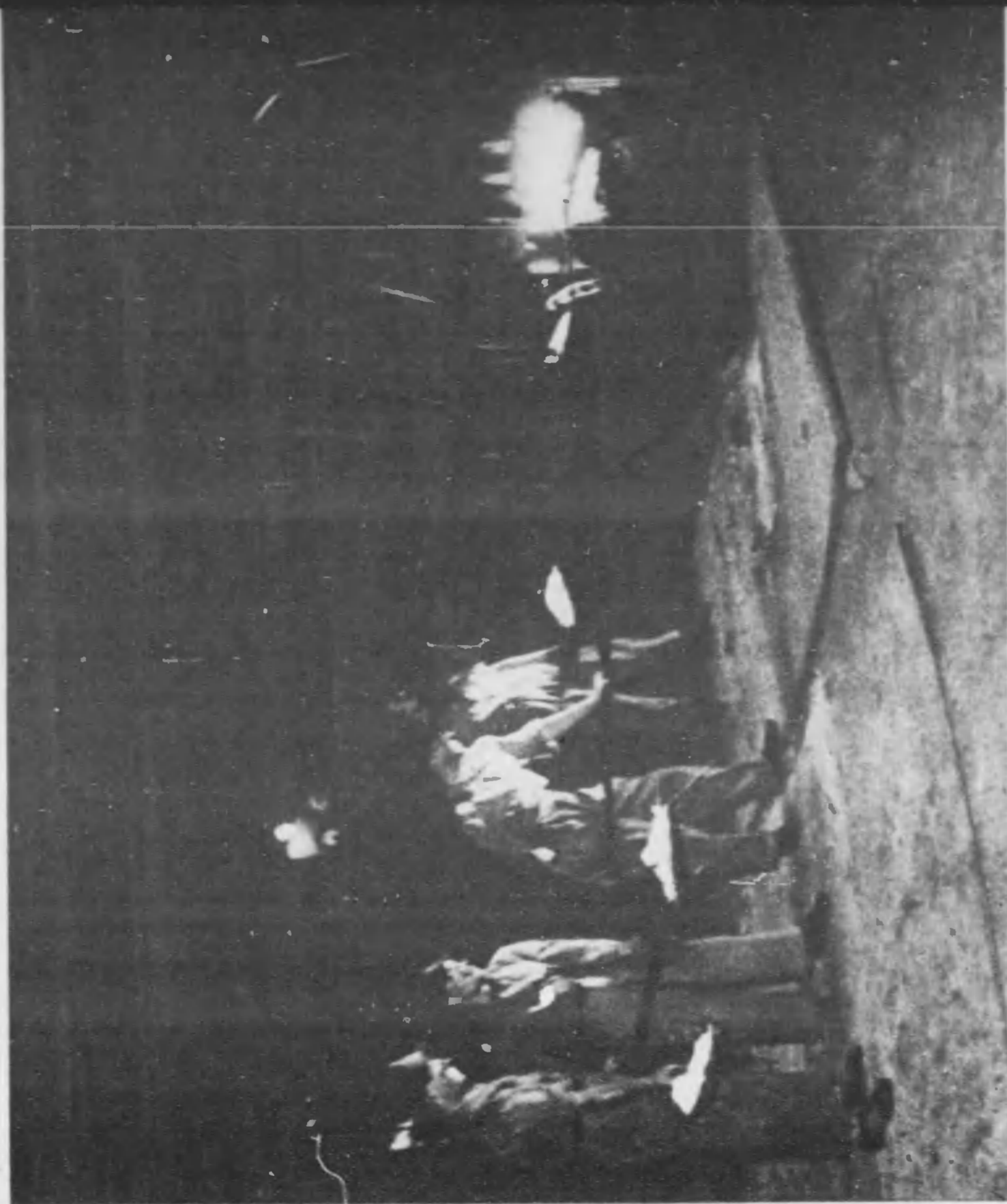
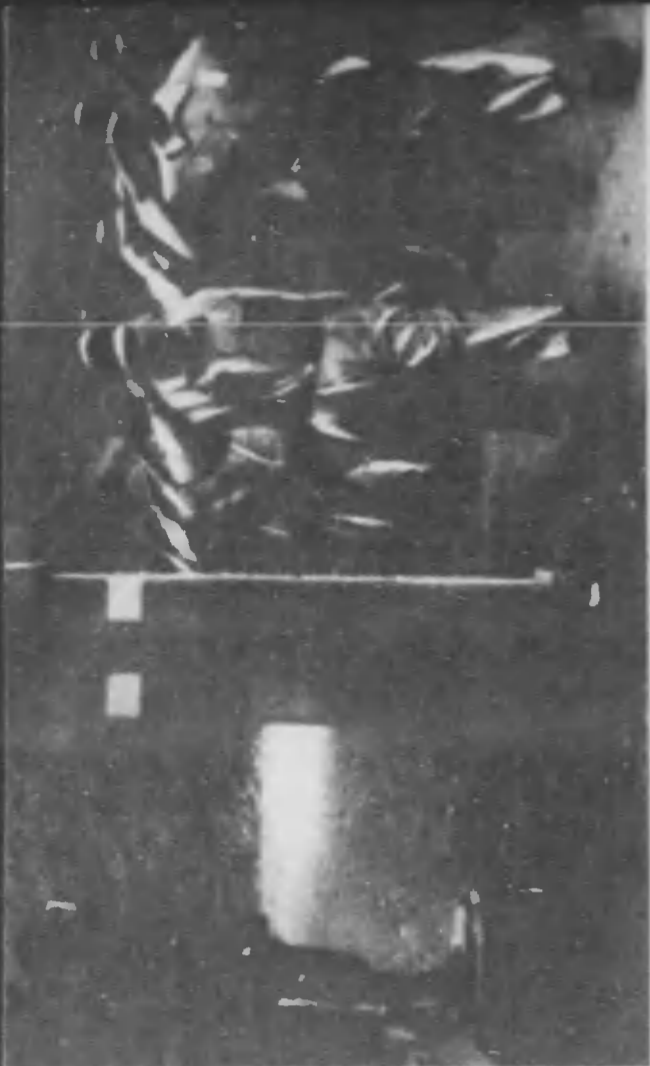


閉鎖工場に、作業はつぎつぎと止まられてゆく

閉鎖工場に、作業はつぎつぎと止まられてゆく

# もろれち い限のカ 人アソタイ 闘敢=所鋼鉄

じつとみちめままだし、きりつと閉鎖めたり



ひつと通る大熱、あふ出る汗をものともせず、シヤベルの手も休みなく、敵闘を続ける

大戦果を上げるわが工員の一語々々、わがことの手より大よらごび

東西相呼んで諸敵米英の反攻を撃砕する新機を操り、日、獨、伊の提携はいよく固い

この時に當つて、わが國在留イタリア人ボナタイ、キニセラ氏ほか二十四名のファシスト黨員も、産かな祖國への想ひを秘めて、共同戦争完遂の決意に燃え、兵隊増産にと、都下、芝浦電機革製鋼所に率先挺身した

入所後、日在は浅く、作業にもまだ不馴れであるが、職場の人々の中に混じり、一般工員と何等異なることなく、或ひは灼熱せる電氣爐の前で、或ひは山と積まれた鋼屑に埋もれて終始、明朗取調を續けてゐる

今日の作業もどことほりなく終つた。ボナタイ氏を圍んで、母國のなつかしい話談に、なごやかな興味がつづく

兵隊増産のひまを別いてつくつた鐵鋼に見事な作業の大戦果。自給自足の日もすでに近い









